

2018/11/17 (土) 10 時より 於：本校校長室

## 平成 30 年度 第 2 回 大阪府立西成高等学校 学校運営協議会

### ○委員一覧

氏名	職名
榎井 縁	大阪大学 特任准教授
北本 義章	大阪市立鶴見橋中学校 校長
小川 謙一	大阪府立西成高校 PTA 会長
高見 一夫	A' ワーク創造館 館長
田中 俊英	Office ドーナツトーク 代表
寺嶋 公典	一般財団法人 ヒューマンライツ協会理事
堂上 勝己	梅南鋼材株式会社 代表取締役
西田 芳正	大阪府立大学 教授

### 1. 開会

### 2. 校長挨拶

### 3. 議事

#### (1) 授業見学感想

(小川様)

モジュール授業で習熟度別に分けて教えるのは効果があると思う。

(榎井様)

少人数制は効果がある。生徒はおとなしい。1年から2年にあがるときに心配。

(西田様)

学校の雰囲気がとても明るい。土曜日の勉強会は何割ぐらいの生徒が出席？

→8割が出席 (第1学年主任 備中教諭)

(堂上様)

習熟度別は先生に負担。習熟度の低い生徒は2年生に上がるときに大丈夫か？

(高見様)

エンパワ1年生初めて見たがとてもいい雰囲気。内容もそれなりのレベルの事をしている印象

(田中様)

国語の授業を見学したが難しい内容だったが生徒がきちんと取り組んでいる。

英語はSV0の授業内容だったが、先生が教え方に苦勞していた感じだった。

数学の授業で二次方程式をアクティブラーニングでやっていて驚いた。

## 各学年の状況について

(1年生)

- ・先週、文化祭がありました。迷路やジェットコースター、お菓子作りなど、生徒がそれぞれ主役になれるよう、各先生が考え、いい文化祭ができた。生徒たちは「やった」と達成感を持っていた。
- ・授業を大切に作る週間。教室に遅れないよう声かけ、掲示を具体的に出す。生活的自立がまだ出来ていない。小・中学校時代に、学校生活を確立できていない生徒が多い。
- ・ユニバーサルデザインとして各クラスにホワイトボードを使って情報を伝えている。学年があがったときに難しい勉強についていけるか。50分授業が長いと思う生徒もいる。最終的には社会に出た時に、生き抜いていける力をつけてほしい。

(2年生)

- ・1年生に引き続き、2年生の壁にあたっている。生徒にどのようなアプローチを行うか？
- ・2年生は夏休み、インターンシップに取り組んだ。17社新規開拓、生徒の希望に添える形ですすめる。「楽しかった」「難しい」「むいていない」「頑張ろう」色々な体験を通じて生徒にはいい勉強になった。
- ・テーマ別人権学習、他人事ではなく当事者の気持ちで考えよう。今まで自分に関係ないと思っていたことが身近な自分の周りにたくさんあることがわかった。

(3年生)

- ・3年間を通して就職に向けて生活規律の確立。10回以上の遅刻者16名。本人の問題だけでなく保護者にも考えていただく。保護者とともに家庭環境を考える。
- ・キャリア教育の充実。公募求人をもっと受験したことが今年の特徴。フリーター23名→10名未満に。  
課題を持った生徒、いろんな人に支えてもらいながらここまで来た。

## 今年度の進捗状況

(校長)

2017年に戻ってきて気付いたことは、教員の平均年齢が36才、新採が6割、2009年から2012年は、ベテランが若手を指導しているんなものが残っていた。昨年は伝えるものが形骸化している。伝える者が伝えきれていない。とりあえずこなしている。これの狙いは何なのか？などの議論までには至らない。

中心になる人間が他の教員をリードしていくにも地図がいたると思ひ、ロードマップを作ろうと考えた。

(明山学習進路部長)

学校としてひとつの方針。ロードマップ作成の手順として西成高校3年間で育みたい力確立。①社会人としての自立 ②社会に貢献できる人間。ここが出发点。

各学年の目標、エンパワーメントスクール1～4期生の各学年の目標を参考に作成。

生徒が育む力の設定。学習する力と自立する力を目標に立てる。時期に応じた目標。

それを踏まえて学校が支援。→学期目標

次に各分掌の目標。具体的な取り組み。学校行事の検討、選定。

教職員が趣旨を理解し実践できるかどうか。

カリキュラム・マネジメント、授業とどうリンクするか？

教科と連携をしっかりとれるかが課題

この方向性で進めていってよいか？

(西田議長)

となりカフェは経営戦略とリンクする。戦略とは情報、アセスメント、目標、アクションプランの四つ。これは支援でもケースワークでも使える。企業もやっている。

ロードマップの目標のところは大正解。目標が一番大事。企業経営などでやっている。

長中短と3種類の目標を使っている。

ロードマップという言い方がわかりにくい。これは西成高校の戦略である。足りないのはアセスメント(見立て、診断)を整理してわかりやすく。

西成高校生のおおらかさ、ポジティブなアセスメントである。

(堂上様)

進路の観点からどういう結果をもたらしているのか？早期離職が多いというが、現状を把握してほしい。企業の声拾うべき。どんな人材をほしがっているか？西成高校生が欲しいと思われるためには、西成高校は何をすべきか？インターンシップで企業が足りているか？企業の検索、探すことが大事。

(明山学習進路部長)

30社ほど。足りているがギリギリ。

(堂上様)

うちでは進捗状況を毎月チェック。なにかの指標を作っておかなければ徒労感だけで終わる。全体の評価は難しい。モデル生徒をピックアップして絶対評価で見てもどうか？

(校長)

フィードバックは頻繁に行われている。アンケートは年6回。どうなれば自己肯定感が高まったといえるのか？学校としてはロードマップに書いてあることを企画書として具体的に出さないと行動計画にならない。

(小川様)

- ・ロードマップに関して、保護者・地域に発信するならばもっと簡単な図・わかりやすい表現にしたほうが良い。
- ・西成高校の強み・弱み（SWOT分析）をするべきだ。勤続年数・平均年齢など、強みでもあるはずである。

(榎井様)

- ・インターンシップがいい取り組みだが、これをマンネリ化さないための取り組みが必要である。
- ・高校と受け入れ企業の間で、あらゆることに対してお互いの共通認識を持つべきである。（どう受け入れるのか、どう指導するのか 等）

(西田議長)

- ・アセスメントをどうするか、情報と現状把握が大切である。

#### 4. 閉会

—次回以降の予定—

第3回 1月26日(土) 10:00～12:00